

拝啓、三池炭鉱労働組合の皆様、私は現在金沢大学薬学部にて在学する一学生であります。そのような者がなぜ突然、お手紙をさしたかという点で、それは一月二十三日NHKテレビが放送した「現代の映像」「三池の十年」を、偶然にも拝見する機会を得たからであります。また週刊朝日の昨年一月十四日号に掲載された「三池の十年」(柴田翔氏)の物語を読んでいたら、でもありません。

私は大学の寮に学校から帰り、食堂で冷えた夕飯をつつきながらこの番組を見たのであります。あふれる涙をおさえることができませんでした。

労働者のふところ

六〇年安保の年、私はまだ中学生になったばかりでしたが、記憶に残っております。

あれから十年、いかに苦しい困難な闘いであつたか、卑劣なことがあつたか、三井、それに屈せず、勤労者の真の根性としてたたかざるを得ない、固結で闘つておられる姿に、郷愁に似た姿を見たような気がしました。私のこれまでの生活と、生れたらにもかかぬ労働者の大きなふところ、そんな感じでもありました。

母は紡績の女工

私は幼いときから、故あって母の手で育てられました。家も財産もない母は、五十一才になった今も、紡績工場の女工として働きつづけております。

母の苦勞を見るにつけ、また周囲の杜世に暮らす工員さんたちの生活を見るにつけ、世の矛盾と苦勞を痛感せずにはおれません。母の勤務している工場はもと、呉羽紡績(現在の東洋紡)といふ、きびしい合理化を強いるところ。

必ずくる雪どけの日

NHKの「現代の映像」に感動

中島秀久さんから便り

やがてくる雪どけ

北陸はただいま雪です。美しいものも醜いものも、全てを包みこんでいます。それは、時として重なるし、圧力となって、北陸に住む人々を押しとどめます。しかしそんな雪にも、やがてくる春の雪どけに芽をふく雑草が、その日のくるのを待ちながら、力強く生きつづけています。そんな雑草にも似た力強さを、三池の皆様から教えられた気がいたしております。

皆様の闘いが、真に勝利する日の一日も早く来んことを。そしてまた皆様、お手紙差し上げることが出来る機会がもてますように。その日までさようなら。

中島さんの現住所は「金沢市弥生二丁目二一五、北漢寮」です。心からおれを申し述べます。

去月二十三日、NHKが「現代の映像」で「三池十年」を放映すると、全国的に大きな反響を呼び起こしました。ここに紹介した中島さんのほかに、次の人々からも便りを頂きました。(敬称略)

佐伯 功 福岡市松崎県住
福岡 良子 奈良県五条市相合
青木 井枝 岐阜市南本庄四条
紙面のついでから紹介を中島さんの便りにとどめました。心からおれを申し上げます。

ここに千円のお金を同封します。私が、一日のアルバイトで得た金です。私は月に八千円の奨学金を受けて、寮生活の全てをまかなっております。それで、母の勤務している工場はもと、今私には、この程度のことでお手伝いできません。お許し下さい。

学ぶ会受入準備へ

日程・内容などきまる

「第七回三池にまなぶ会」の受入れ準備が、七〇年のことだけに、その意義は格別大きく、執行部は次の受け入れ計画を明らかにした。



写真は一昨年の学ぶ会の会場になった後市民会館。このときにはここで、合唱詩劇「みいけの闘い」を上演した。

日時 二月二十一・二十三日
参加者 二百人。参加者は一人二千五百円の参加費、旅費を自弁。

日程
第一日 正午から受付開始。午後一時〜四時、大牟田労働会館で集会。三池の現状報告と日程確認。

午後七時〜同十時、地域で主婦と交流。のち民泊。
第二日 午前九時〜正午、大牟田労働会館。塚本元書記長の「反合理化のすすめ方」。

午後一時〜同四時、テーマ別受け取った賠償金の一部をカンパの西さん

分散討論(反合理化、反戦平和、青年運動、学習活動)場所 労働会館講義室、同日本間、大地坪二階、本所指導部本部大広間。
午後八時〜同十時、地域分會との交流。のち民泊。

三池に学べる日を待つています

米子 野津千代子さん

寒い毎日の活動、大変なこととおいいます。米子は雪の降る毎日、仲間が学

米子より十名近くの仲間が、三池のたたかいの中に自分たちのやっていることの正しさを確認し、今後の生き方を学ぼうと待っています。その日のくるのを待っています。よろしくお願ひいたします。

今年も再び、三池に学ぶ会が近づき、七〇年代のたたかいの偉大な確認と、六〇年安保と三池の結核がよりきびしく追及され、私たち労働者にたたかいのエネルギーを与えてくれるものと思っています。

おれと安保

【4】

合理化 だろ、これを本化し何で、すいせんもんなという言葉だ。反対闘い もさせようとしてきた。争のな ち、うと子会社である「みなと木材」をつくり、そこに三十二人の新労働者を強制配転するといふ。表示だけは「この線でおちつかないが、私はここにいま私たちが直面している重要な問題がある」と思ふ。

「常識」をこえた 闘いの構えを 港務 江口春雄さん(33才)

いままで言葉ではいつてきたが、をもって職制、合理化、この社会をみつめていくことが、三池労働者にとつては、すべての労働者にますます要求されてくるのではないだろうか？

「あなたの常識はうすてんの」という言葉でみんなに話してきた。三池労働者自身がすでに「世間的な常識」からはなれていく、その立場をさらにすすめるということだ。変つてきた第二組合員の目

「あんな常識はうすてんの」という言葉でみんなに話してきた。三池労働者自身がすでに「世間的な常識」からはなれていく、その立場をさらにすすめるということだ。変つてきた第二組合員の目

三池労働者にかぎっては拒否することだ。港務所の合理化はそれだけでなく、私たちの施設、機械、電工のなかで、従来おこなわれてきた作業範囲の区割り(仕事の分担)を撤廃させるといふことができた。

いままで電工は荷役機械、梁線、電灯、鉄道信号、電話などにわかれていたが合理化で人がへつき、仕事ができなくなってきたから

「知っているが知らん」とは、合理化に対して言葉でガンガン抗議

「知っているが知らん」とは、合理化に対して言葉でガンガン抗議

「知っているが知らん」とは、合理化に対して言葉でガンガン抗議

「知っているが知らん」とは、合理化に対して言葉でガンガン抗議